

保育の質の向上における 「民話絵本の読み聞かせ」について

久保木 亮 子

On “Improvement of the quality of nursery education” on
“Reading folktales’ picture books”

Ryoko KUBOKI

キーワード：保育の質、民話絵本、文化の伝承

はじめに

保育者をめざす学生に、民話絵本の読み聞かせを通して、保育の質の向上を図りたいと考えている。幼児期より地域の文化に触れ、自分の生まれた町に愛着を持ち、人と人、地域が繋がり、地域文化を次世代に伝承してほしいと願っている。地域の繋がりが希薄になり、隣保に誰が住んでいるのかわからない、自分のふるさとなさげを感じている人が増えている。

そこで、保育現場で地域に伝わる民話の掘り起こしを行い絵本にまとめ、読み聞かせを通して地域の良さを再発見してほしいと取り組んでいる高砂市の公立保育園、こども園の保育士、保育教諭に表1のようなアンケート調査を行った。また、授業で民話絵本に触れた学生のアンケート調査を踏まえ、上記、題目について考えていきたいと思う。

*各問いで回答なしについては（ ）内に人数を記入している。

表1. アンケート

園長・副園長

保育士・保育教諭の皆様

2016. 8.15

神戸親和女子大学

福祉臨床学科 久保木 亮子

地域文化の醸成についてのアンケート

現在、核家族の家庭が増え、地域との繋がりが少なくなるなど、子育て家庭への環境が整わなくなってきました。また、人とのかわりも消極的になり、地域の魅力に気づかず、自分の生まれ育った町にも愛着が持てなくなり、様々な事件や事故などに繋がっています。高砂市においては、第4次高砂市総合計画の中に健康・環境・文化を中心に「郷土に学び、未来を拓く生活文化都市 高砂」が掲げられています。

その中で「文化」・歴史文化を再認識して保存・継承・発展させ、新たな文化を創造し、ふるさと意識あふれる町作りという取り組みを行っています。そこで保育に関わる皆様も乳幼児期から地域文化に触れる試みとして民話の上演、紙芝居や人形劇、絵本作りに取り組んでおられます。

そこで、保育士の皆様方が日ごろの保育の中でどのように実践しておられるのかをお聞かせください。アンケート結果は、本大学の紀要にて高砂市の取り組みから、乳幼児期からの地域文化の醸成のあり方・今後の展望などを発表したいと考えています。ご協力の程、よろしくお願い致します。

- 問1. 担当しているのは何歳児ですか？ (歳児)
- 問2. 保育歴は何年ですか？ (年)
- 問3. 子ども達に週、何回位絵本の読み聞かせを行っていますか？ (回)
- 問4. 子どもたちに人気のある絵本は？<複数冊可>
()
- 問5. 勤務先の保育園・こども園は民話に取り組んでいますか？ (はい・いいえ)
「はい」と答えた方はどのような取り組みですか？
()
「いいえ」と答えた方は、取り組めない理由は何だと思えますか？
()
- 問6. 民話の読み聞かせでの子どもの反応は？
()
- 問7. 保護者からの反応・反響はありますか？ (ある・ない)
「ある」と答えた方は、どのような反応ですか？
()
「ない」と答えた方は、反応がないのは何故だと思えますか？
()
- 問8. 子ども達の成長に民話の取り組みは必要と思えますか？ (はい・いいえ)
「はい」と答えた方は、その理由を教えてください。
()
「いいえ」と答えた方はその理由を教えてください。
()
- 問9. 民話の取り組みを広めていくには、どのようにしたら良いと思えますか？
()
- 問10. 狂言ワークショップ活動についての質問にお答えください。
参加した子ども達・その保護者からの声をお聞かせください。
()
保育士の皆様の声をお聞かせください。
()
- 問11. 地域文化を乳幼児期から醸成するには、民話・狂言ワークショップ以外にどのような方法があると思えますか？
()

問12. 地域文化をこれからの保育士にどのように継承していけばよいと思いますか？

()

問13. 地域文化を醸成するには、どのような支援・体制が必要と考えますか？

()

上記アンケートは、公立保育園・こども園（正規・臨時保育士・保育教諭・園長・副園長含む）89名に実施し、集計結果は下記のとおりである。

問1. 担当しているのは何歳児ですか？

歳児	人数
0, 1	20
2	14
3	15
4	13
5	15
担当なし	12

問2. 保育歴は何年ですか？

保育歴	人数	保育歴	人数
1年未満	3	16～20年	8
1～5年	19	21～25年	14
6～10年	20	26～30年	6
11～15年	9	31年以上	10

問3. 週何回位、絵本の読み聞かせを行っていますか？

歳児	回数	人数	歳児	回数	人数
0, 1	3～5	15	4	3～5	8
	10	5		7～10	5
2	5	9	5	4～5	10
	10回以上	5		6～10	5
3	2～4	5			
	7～8	2			
	10回以上	8			

問4. 子ども達に人気のある絵本は？

0, 1歳児	だるまさんシリーズ・うずらちゃん・ねないこだれだ・もこもこ・あっぷっぷ・かおかおどんなかお・おつきさまこんばんは など
2歳児	どうぶつのおかあさん・ワニワニくんシリーズ・だるまさんシリーズ・ねないこだれだ・もこもこ・ねずみくん・しろくまちゃんシリーズ など
3歳児	11匹のねこシリーズ・ぐりとぐらシリーズ・はらぺこあおむし・ねずみのでんしゃ・あかまるちゃんたくろまるちゃん・3匹のこぶた など
4歳児	あっちゃんあがつく・ワニワニくんシリーズ・ぐるんぱのようちえん・ねずみくんのチョコッキシリーズ・虫の絵本・自然の本 など
5歳児	昔話・図鑑（自然）・童話・10匹のかえるシリーズ・ほちほちいこか・ほねほねシリーズ・おしいれのぼうけん など

問5. 民話に取り組んでいますか？

歳児	はい	いいえ	回答なし
0, 1	16	14	2
2	14	0	
3	14	0	
4	13	0	
5	15	0	
園長・副園長	12	0	

「はい」と答えた方はどのような取り組みをしていますか？（全歳児）

- ・保護者・地域の方に民話絵本の貸し出しをしている
- ・運動会や劇遊びなどで民話を表現している（5歳児が中心となって）
- ・民話の人形劇や大型紙芝居などの読み聞かせを行っている（園児・地域の方）
- ・民話の場所を散歩したり、散策したりしている
- ・オープンスクール・参観日などで保護者・祖父母などに伝えている
- ・民話絵本や民話の人形などを作成している
- ・民話の歌を歌い続けている など

「いいえ」と「答えた方はなぜ取り組めていないのですか？

- ・年齢が低いので難しく理解できないと思っている
- ・民話絵本の貸し出しをまだ行っていない など

問6. 民話の読み聞かせでの子どもの反応は？

0, 1, 2歳児（未満児）

- ・繰り返し読み聞かせをしている。今は難しいが以上児になると理解できると思う
- ・内容よりも身近にある場所や物に興味を持っている など

3, 4, 5歳児（以上児）

- ・自分の知っている名所や地名の由来などが出てくるので興味を持っている
- ・毎年民話を見て知っている子どもが多く、散歩に行くと「○○の所や」と話している
- ・祭りなど現代と繋がっている部分もあり興味津々で見ている
- ・劇遊びで役になりきり演じることでより理解を深めている など

問7. 保護者からの反応や反響はありますか？

歳児	ある	ない	回答なし
0, 1	6	3	10
2	7	2	7
3	7	2	6
4	8	3	2
5	11	1	3

「ある」と答えた方は、どのような反応ですか？

- ・自分の住んでいる目の前に民話の名所があることが知ることが出来た
- ・民話について知らなかったので、民話絵本の貸し出しを希望される人が増えた

- ・祖父母など行事に参加した後に、民話の感想が届くようになった
 - ・自分達が住む地域の昔を知ることはよいことだという意見が多い
 - ・劇遊び（生活発表会）に地域に伝わるお話を演じてくれたよかった など
- 「ない」と答えた方は、反応がないのはなぜだと思いますか？
- ・民話絵本の貸し出しを始めたばかりなので、保護者の目に留まっていないから
 - ・保護者に公開していない
 - ・回答なし（35） など

問8. 子どもの成長に民話の取り組みは必要と思いますか？

歳児	はい	いいえ	回答なし
0, 1	17	0	3
2	13	1	0
3	13	0	2
4	13	0	0
5	15	0	0
園長・副園長	12	0	0

「はい」と答えた方は、その理由を教えてください

- ・生まれ育った土地に愛着が生まれ、命を大切にすることに繋がる
- ・心のふるさとなる
- ・ふるさとに愛情を持ったり、歴史のつながりを感じたり、昔の人に想いを馳せたり、豊かな心の育ちになる など

「いいえ」と答えた方は、その理由を教えてください

*回答なし（5）

問9. 民話を広めていくには、どのようにしたらよいと思いますか？（全歳児）

- ・園内での取り組みを進めると共に地域の子育てサークルの親子、小・中・高校、地域の施設等に取り組みを紹介したり、市内のイベントなどにも宣伝したりする
- ・地域や保護者も巻き込み一緒に地域の散策をしたり、絵本の読み聞かせや民話劇をしたりして繋いでいく
- ・歴史に詳しい人と民話を巡るバスツアー
- ・地域の交流での読み聞かせや新聞各紙などにPR
- ・民話の地で劇遊びごっこをする
- ・園の行事やオープンスクールなどで披露する
- ・具体的にはわからないが、広めていったほうがよいと思う
- ・回答なし（17） など

問10. 狂言ワークショップ活動についての質問にお答えください

参加した子ども達・その保護者からのお声を聞かせてください（4, 5歳児担当の声を反映）

- ・本物の文化にふれることの大切さ、言葉は分かりにくいけど独特な動き・滑稽なしぐさなどキーワードになる言葉や泣き声・まじない聴くことで話を理解できていた

- ・ 独特な動作や発声が面白かった
- ・ 観るだけでなく体を動かして体験するなど楽しさが倍増し、家でもやって見せるなど親にも楽しさが伝わった など

保育士の皆様のお声を聞かせてください

- ・ 狂言は難しいというイメージがあったが、実際に見ると身近な物を題材にしているので親しみが持てた
- ・ 日本の伝統文化に触れることは大切
- ・ 狂言に触れることが少なくなっているので、良い機会である
- ・ 面白い場面は笑って観ても良いということが分かった
- ・ 参加したことがないので分からない・・未満児担当（42） など

問11. 地域文化を乳幼児期から醸成するには民話・狂言以外にどのような方法があると思いますか？

- ・ 地産地消の食材を給食に取り入れる
- ・ 郷土料理の紹介や親子クッキングに挑戦する
- ・ 高齢者や地域の人とで子ども達に昔遊びを伝承していく
- ・ 民話と伝統文化の融合を考える
- ・ 保育士が地域文化を学び子ども達に伝えていく
- ・ 回答なし（33） など

問12. 地域文化をこれからの保育士にどのように継承していけばよいと思いますか？

- ・ 小・中校の一貫教育の中で地域文化の継承をしていながら、校区の先生達にも働きかけ地域で取り組んでいく
- ・ 地域の催し事や歴史に興味関心をもって参加する
- ・ 新任研修や保育士が集まる時に一緒に民話の紙芝居見たり、民話の歌を歌ったりして保育の中に取り入れる
- ・ 子育て応援フェアなどのイベントを通して、保育士が交流し文化の継承の意識を高め合う
- ・ 現在の取り組みを途切れることなく継承していく
- ・ 保育者自身が地域を知ることが大切で、知らないことを知る喜びを直接体験することから学んでいく
- ・ 回答なし（31） など

問13. 地域文化を醸成するには、どのような支援・体制が必要だと思いますか？

- ・ 行政と共に多世代交流の場として保育園・こども園が中心となり社会全体で子育てを考え、地域が一つになるような体制作り
- ・ 園だけでなく地域や他の公共機関とも繋がりを深めていく
- ・ 小・中・高・行政が一体となって“ふるさと学”を進める
- ・ 学校の授業に取り入れる
- ・ 保護者にPR
- ・ 文化を大事にするのもこれからの文化を創っていくのも、そこに生きている人である
- ・ 乳幼児が家族や地域の温かさを十分に感じて育っていくような、それを支える自治体や国の支援が必要
- ・ 回答なし（33） など

考察1

以上、現場保育士のアンケート集計結果から、日ごろより絵本の読み聞かせを大切に行い、乳幼児期における心の育ちが大切で豊かな感性を育てる保育が実践されているのが分かる。しかし、民話絵本や保育活動においては経験年数の少ない保育士、0,1,2児担当保育士は、どのように民話を保育に取り入れていけばよいか分からないと答えた人が多くいる。また、保育園によっても取組みにばらつきがあり、職員間での意識統一が困難な様子が伝わってくる。民話の持つ意味、民話の掘り起こしのノウハウ、公立保育園の保育の質の確保、意識などが問題となってくるように考えられる。すべての保育士が民話や地域文化に対して、特別な保育、かわりが難しいといった苦手意識が和らぐよう、研修会を続けたり、学校区の教師集団や行政が連携や支援体制を作ったりして行くことが望まれる。民話活動や伝統文化の継承は地域ぐるみのつながりと未来を生きていく子どもたちの“心のふるさと”となってほしいと思う。

次に、本学福祉臨床学科4年生に民話絵本の読み聞かせ授業を行った。そこから民話絵本の読み聞かせを保育現場で取り組んでいけるか。子どもや高齢者の方々へ伝えていくとどのような効果が期待されるのか。など、研究テーマである“保育の質の向上における「民話絵本の読み聞かせ」について”表2のようなアンケート調査を行った。

現場の保育士から見た民話絵本の取り組みと学生の授業の取り組みについては、両者のアンケート結果から比較検討していきたいと思う。

表2. アンケート

アンケート調査 民話について

2016.11.25

福祉臨床学科

久保木 亮子

幼児期から、自分の育った街に愛着と誇りを持って成長して欲しいと願い、保育現場で地域に伝わる民話の掘り起こしを行ってきました。地域の方々とふれあいを通して幼児期に愛情いっぱい育てられたという思いが思春期になっても地域が心地よい居場所となり大人になっても心のよりどころとなって郷土愛を育てて欲しいと願っています。そこで皆様に民話についてのアンケートにご協力をお願いします。

問1. 民話と言うのは何か知っていましたか？

はい いいえ

問2. 自分の生まれ育った地域の話（民話）を知っていますか？

はい いいえ

問3. 今まで民話の話を聞いたことがありますか？

はい いいえ

問4. 民話の話を聞いて保育現場や、高齢者（地域、施設利用者）の方に読み聞かせをしようと思いませんか？

はい いいえ

理由をお聞かせください。（はい、いいえ どちらの意見でもお聞かせください）

* 上記アンケートは36名に実施し、集計結果は下記のとおりである。

問1. はい 28人 いいえ 8人

問2. はい 11人 いいえ 25人

問3. はい 20人 いいえ 16人

問4. はい 34人 いいえ 2人

* 「はい」「いいえ」どちらの意見でもお聞かせください

「はい」・子どもが知っておくとよいと思うから

- ・幼児期に私も聞いて面白いと思った経験があるから（明石市）
- ・民話をする事で話が広がりそう。地元を大切にすることは必要だと思うから
- ・郷土愛を持ってほしい
- ・自分の住んでいる町のことを知ってどんな歴史があるのか、どんな良いところかを知ること町への愛着も変わると思うから
- ・伝統・文化というのは大切だと思っているから、そして受け継いでいくべきことだと思うから
- ・次世代にも伝えていきたいから
- ・初めて民話を聴いて、民話の温かさを知った（難しいものだと思っていた）
- ・自分の地域についての理解を深めることは大切だと思うから
- ・地域の方と共感や話の幅が広がると思った
- ・高齢者の方は好きだと思うから
- ・自分の生まれた地域の民話を知らないなので、まずは知って伝えたいと思う
- ・町の由来を知ったりするのは楽しいと思う など

「いいえ」・民話について興味があまりないため、興味のある人がやることで子どもに伝わると思う

- ・うる覚えだから

考察2

学生たちは、民話は何かということでは2/3以上が知っているといった結果が出たが、自分の育った町に民話があるのかに対しては知らないと答えた学生が1/2いた。民話を聞いたことがあるとないがほぼ半分ずつだった。地域文化が中々浸透していないことが分かる。しかし、学生が保育所、幼稚園、認定こども園、高齢者関係施設で働くようになれば民話を次世代に伝えたいと考えていることがアンケート結果から推察される。そこでまず、学生たちに民話（英：folk tale, folk story）は、民間説話は、民衆から生まれ、民衆によって口承（口伝で伝承）されてきた説話のこと。昔話の他、伝説、世間話を含める。伝承する人がいなくなれば絶えるという制約や伝統が変容する前に記録保存しようとする動機から文字が伝わった地域では文書化が試みられたことなど、学術的な見地と並行して文化の伝承をしていくことが大切であると考えられる。

民話の分類

民話は、内容や形式によって、大きく「昔話」「伝説」「世間話」に分けられる。

- ・昔話（むかし、むかしこ、むかしがたり）
 - ・「むかし」という確かでない時や「あるところに」という不明な場所を用い、本当にあったかどうかは知らないけれどという心持ちで語り継がれる話。「てっぺんぐらりん」「どんどはれ」「とっぴんばらりのぼう」などで終わることが多い。
- ・伝説（いいつたえ、いわれ）
 - ・ある特定の人物や時、場所と深く結びつき、少しは信じてほしいという心持ちを含んで、説明的

に語り継がれる話。弘法大使や源義経など歴史上著名な人物が伝説の主人公となることも多い。古代の人物にまつわるときしばしば神話と区別しがたい。

・世間話

- ・自らが主人公としてキツネに化かされたという類の話。近隣の人や親族、親戚が主人公である場合もある。実話や体験談のかたちで口承される。

〔民話絵本の読み聞かせの授業風景〕



高砂市に伝わる民話（そねのみんな）

「ヨーイヤサーとてんじんさん」

<子どもと保育士の手作り絵本>

「昔々、その昔・・・(中略)・・・伝説によると901年、菅原道真公が筑紫の国へ流される時、曾根に立ち寄り日笠山に登られました・・・(中略)・・・毎年10月13、14日に村の繁栄・五穀豊穡を願い、秋の大祭を繰り広げます・・・(中略)・・・曾根天満宮には、学問の神様としてお参りをする人が絶えることがありません。」

おわりに

幼児期から地域の文化に触れることが少なくなっている。現場の保育士もどのように地域の文化に触れ、その経験や活動を保育展開していきながら、子どもや保護者を通して地域に広めていけるのか、保育士も学生もこの取り組みの重要性を感じている。保育士・福祉職をめざす学生に地域文化、日本の伝統文化に触れる内容や機会を設け、授業で伝えていく大切さを感じている。今年度は、教員が保育現場で子どもたちと作成した民話絵本の読み聞かせを学生に行い、その取り組みの作業手順を伝えるに留まっているが、今後の課題として授業の中で、①日本の文化に興味を持つ②民話の歴史的背景を学ぶ③グループで地域文化に取り組むスケジュールを立てる「以下、グループ活動」④自分の住んでいる街の自慢できる場所を見つける⑤地域に伝わる話を見つけ調べていく⑥民話絵本（紙芝居）を作成する⑦民話絵本（紙芝居）の読み聞かせを行う「以下、全体活動」⑧評価、反省とともに課題を明確にする など、一連の流れで行い保育の質の向上を図っていきたい。グループで作成した民話絵本（紙芝居）の読み聞かせは、自分達の作った作品を発表するだけでなく、全グループの民話絵本（紙芝居）の読み聞かせも行い、民話を身近なものに感じられるようにしていくことが大切である。そして、民話絵本（紙芝居）として製本しシリーズ化していく。ともすると文化の継承の取り組みの火が消えてしまうことが多い。それは、苦手意識を持ち特別な取り組みと感じてしまう傾向にある。さらに授業と並行して民話絵本（紙芝居）の読み聞かせや地域の文化を様々な方法で取り組み、実践している保育所の見学や実践報告をしていただく場を設定し、保育現場と保育士養成校の協働が今後の取り組みに必要であると考えている。教員も地域の文化、日本の伝統文化を次世代に伝えていくことの重要性を認識し、授業に組み込んでいきたい。※この分野「文化の伝承」の実践事例が少ないため、現場保育士、学生に期待をしたい。（※老若男女が関わる子育て文化の掘り起こしや子育て活動支援の開発普及に取り組めます）そして、学生がその学びを様々な地域に就職して先輩

保育士や施設職員に伝え、民話絵本（紙芝居）の読み聞かせや地域の文化を大切に語り継ぎ、広め、定着させながら郷土愛を育て人々に心のふるさと作りをしていってほしいと願っている。

参考資料

民話の分類 フリー百科事典「ウィキペディア（Wikipedia）」

播磨風土記 民話絵本のストーリー

※全国保育協議会 公立保育所アクションプラン（第三次）具体的な取り組み

公立保育所の強みを活かした「全保協の将来ビジョン」の実現カテゴリー4 子育て文化を育む（2）^{①9}